

学位論文の要旨	
氏名	濱田 みゆき
学位論文題目	『白鯨』研究—物語世界と共鳴する音表現の諸相
<p>本論文は、19世紀アメリカの作家、ハーマン・メルヴィル (Herman Melville) の代表作『白鯨』 (<i>Moby-Dick or The Whale</i>) (1851年) における音表現について分析し、様々な音表現、例えば、登場人物の言葉の響き、歌や楽器演奏などの音楽表現、人の動作がもたらす音や物音などの環境音が、物語世界のなかでどのように共鳴しているのかを検証し、その共鳴が何を提示しているのかを考察するものである。</p> <p>先行研究にも音楽表現や言葉の響きと物語内容との関連を検証したものがある。しかしながら、『白鯨』全編にわたり、音表現とテキスト内容との関連について検証したものは見当たらない。そこで、本論文では、『白鯨』における重要構成要素の一つと思われる音表現を対象として『白鯨』を全体を通し、分析するものである。結論として、人の声やそのリズムがもたらす登場人物の一体感やその負の側面、音表現がもたらす人種の境界を越えた多様な価値観、人と環境が影響を及ぼし合う様などが、音表現の共鳴と共に描写されていることを明らかにする。</p> <p>第1章において、『白鯨』の全体像を把握する。第1節では、ウラジーミル・プロップ (Vladimir Propp) の理論に沿って物語内容の分析を、続く第2節では、ジェラルド・ジュネット (Gérard Genette) の理論に沿って物語言説を中心とした構造分析を行う。第3節では、『白鯨』が複雑な物語構造をもっている要因を『白鯨』の成り立ちに照らし合わせて確認する。レオン・ハワード (Leon Howard) らの先行研究に拠れば、『白鯨』の成り立ちにはウィリアム・スコアズビー (William Scoresby) などの鯨に関する著作からの情報、ナサニエル・ホーソーン (Nathaniel Hawthorne) との交流、そしてウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare) の作品が大きく影響していたという。また、『白鯨』が段階を経て出来上がったことにより、『白鯨』の作品構造及び内容に変化が生じていた。</p> <p>以上を踏まえた上で、第4節では、ジェームズ・バブアー (James Barbour)、八木敏雄、寺沢みづほ三者の先行研究の比較考察を行う。三者の物語を区分する着眼点は、それぞれ異なるものであるが、章区分については一致する点が多いことが明らかになった。成立過程において、鯨学やシェイクスピア、ホーソーンの影響を受けたことで、劇形式の導入や</p>	

さらには物語の内容や流れに変化が生じたと考えられる。

第2章では、第1章の結果を踏まえて、鯨に関する情報の収集、ホーソン、そしてシェイクスピアからの影響が『白鯨』の物語の内容にどのように反映しているかについて、3節に分けて詳細に考察する。メルヴィルは書評「ホーソンとその苔」に於いて、ホーソンの『旧牧師館の苔』を批評している。ここではシェイクスピアについても言及され、二人の作品は繋がりをもちながら、メルヴィルへ影響を及ぼしたことがわかる。シェイクスピアの影響については、主として『リア王』を採り上げ、『白鯨』と『リア王』両者の悲劇性を生む狂気と異教的世界という共通点と差異について考察する。さらに、第4節においては『白鯨』第132章を中心として、ホーソンとシェイクスピア二人の影響を『白鯨』のテキストに見ることができるか、また、二人の影響が反映された物語内容が音声表現としてはどのようにテキストに描かれているかについて分析する。

第3章では、本論文の研究目的である『白鯨』の音表現の描写について、テキスト全体を通して検証していく。音声、音楽、声をもたない鯨、環境音、文字表記の五つの観点に沿って分析を行い、音表現がどのような場面で使われ、どのような作用をもたらしているかについて考察する。第1節では、『白鯨』テキストにおける音声表現に着目してテキスト分析を行い、第2節では、音楽表現について検証を行う。第3節では、鯨が声をもたないことの描写についての考察を行い、第4節では、環境音の描写について考察を行う。第5節では、音声、音楽、環境音などを『白鯨』で表現する手段としての文字表記に関して考察を行う。

第4章では、第1章から第3章までの分析結果の比較を行う。特にシェイクスピアの影響と音声表現や音楽的表現、環境音との関連に着目して考察を行う。『白鯨』には全体を通して、シェイクスピアの影響だけではない、広範な口述文化を取り入れた音、音声、音楽表現が見られることを論じた。

以上の考察から、第5章では『白鯨』における音表現の特徴とそれが『白鯨』に与えている効果を確認する。『白鯨』では、全編にわたり音声、音楽そして環境音までもが駆使され、エイハブとモーヴィ・ディックとの戦いに込められた悲劇的な世界観の中に人と人の関係性や、人と環境が影響を及ぼし合う様が、音表現の共鳴と共に描写されていることが確認できる。